

マクロ学会通信

2011年 5月号 (Vol. 23 No. 242)

●東日本大震災に伴う日本復興に向けた

緊急シンポジウム が開催されました

2011年4月19日(火)13:00-より
防衛大学校AVホールにて、
主催 日本マクロエンジニアリング学会
共催 防衛大学校

として、東日本大震災に伴う日本復興に向けた緊急シンポジウムが開催されました。急な開催ながらご出席いただいた方、開催に当たりご尽力いただいた会員の皆様ありがとうございました。

●2010年度 第4回 理事会が開催されました

4月26日(火)午後6:00~より
拓殖大学 文京キャンパス国際教育会館(F館)にて
理事会が開催されました。17名の候補者が承認されて
新理事が決まりましたことご報告します。理事選挙ご
協力頂きありがとうございました。

お知らせ

■理事会のお知らせ

日 時： 2011年(平成23年)6月4日(土)
場 所： 拓殖大学 文京キャンパス

詳細時間、教室等詳細決まり次第理事の皆様にご連絡
いたします。

■総会のお知らせ

日 時： 2011年(平成23年)6月4日(土)
午後開始予定
場 所： 拓殖大学 文京キャンパス

詳細時間、教室等詳細決まり次第皆様にご連絡いたし
ます。

■経済工学研究会 代表 茂木 創

※※ シンポジウム ※※

TPP(環太平洋経済連携)・食の安全・食料輸入

日時： 5月28日(土) 13:30~16:30
場所： 拓殖大学文京キャンパス C館 201教室
(<http://www.takushoku-u.ac.jp/map/index.html>参照)

プログラム

司会 吉野 文雄(拓殖大学)

13:30~15:00

研究発表

○藤川 清史(名古屋大学)

「食料自給率とは何か」

○茂木 創(拓殖大学)

「TPP がもたらす群馬県下の農業(酪農)と

県民生活への影響」

立花 亨(拓殖大学)

「小麦の『自給』に固執するサウジアラビア」

15:10~16:30

討論

秋吉 祐子(聖学院大学)

渡邊 隆俊(愛知学院大学)

木村 正信(金沢星稜大学)

参加費： 無料

事前登録が必要です。

下記にEメールでお申し込みください。

fyoshino@ner.takushoku-u.ac.jp

■ウォーターフロント研究会 代表 沼尻重男

○創立25周年記念講演会 15:40~16:30

テーマ：「日本の環境問題の経緯と新動向」

講師：小林 料氏

(NPO法人環境カウンセラー全国連合会
特命理事)

日 時： 5月29日(日)

時 間： 15:00~18:00

参加費： 500円

場 所：大黒家倶楽部(浅草・大黒家別館4階)

懇 親 会：16:40~18:00(会費：3千円)情報交換会

参加希望者の連絡・問合せ先

糸井 守 TEL 0422-45-0352

F A X 0422-45-0353
携帯電話 080-5488-1236
E-mail: mi1234toi@ahoo.co.jp

■文明システム研究会

5月より「JICA 地球ひろば」にて団体登録をおこな
い会議室を利用することになりました。

詳細は下記 HP を御覧下さい。

<http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

JICA 地球ひろば

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

電話番号：03-3400-7717 ファックス：03-3400-7394

話 題：『地球環境問題の議論』

(東日本大震災について、各人の議論)

①日 時：5月21日(第三土曜日)

時 間：15:00～19:00

場 所：JICA 地球ひろばセミナールーム508

利用者：日本マクロエンジニアリング学会

代表者：新田喜孝

責任者：谷本光生

○谷本が見て来た

「浦安の液状化の写真」

「千葉県旭市飯岡町の津波の跡と

瓦礫の仮置き場などの写真」

○テレビのDVDとしては、3月11日BSフジのプ
ライムニュースの時間の映像(他にも11本)。大船
渡の津波の映像も有り。当日再生の際普通のD
VDに変換する事が出来るか否か不明

○文章としては、「宿毛に25年の大津波が来る」と
いう文章を紹介できます。これは、4月16日に東
京で開催された同郷の集まりで、宿毛の市長に
渡したものです。

②日 時：6月18日(第三土曜日)

時 間：15:00～19:00

場 所：JICA 地球ひろば 4F 団体 MR2

使用機器：プロジェクター、スクリーン、

レーザーポインター

■JAMESプロジェクト

TARF (The Asia Rice Forum Japan、
アジア稲文化フォーラム)

ご案内

TARFは5月14日(土)、15日(日)に田植えを実施し
ます。今年は水稻布マルチの使用による米作り実験(4
アール)を試みます。種を布の中に埋めたシート(こ
の方式の開発社丸三産業のもの)を田圃に敷きます。

雑草の生育を抑え、数か月で布は水田の中で分解され
ます。田植えという労働を省力化する方法です。米作
りの労力負担を軽減する手段です。田植えや除草にお
ける重い労働が不向きまたは不可能な人々にも米作り
が可能な方法であるという利点があります。どの程度
省力化となるかどうか、布の分解と草や稲の生育との
関係、害虫との関係、収穫量、味覚等を実験したいと
考えています。

今年からTARFが行ってきた米作りの地である新潟県
十日町市では当地で農作業を行う都市住民に無料のバ
スの往復便が出るようになりました。(鉄道では片道7
千円台です。)土曜日の朝世田谷(松代と世田谷とは
数十年の市民交流があるため)から松代(まつだい、

長野県松代と間違えないように)に行き、帰りは日曜
日の午後に松代を出て世田谷に戻るという行程です。
バスサービスは5月の連休から開始となります。ご希望
の方は日・行程が分かり次第お知らせします。

宿泊は十日町市の宿舎(松和荘)の予定です。(参
加人数:大学生や市民の数によって変更-貸し民家みら
い1号-もあり得ます。)宿泊費は1泊5千円前後です。

なお私どもは準備のために13日(金)前日の夜に当
地に行きます。

準備するもの：農作業のできる衣類、下着は着替え
分が必要、寝巻類、フリース等(朝晩寒い時があるた
め)、洗面用具(バスタオルを含む)、帽子、軍手(必
要の方)、長靴(ご自分のを使いたい方)、簡便な雨
具、防虫剤・用具(必要な方)、サングラス(必要な
方)

TARF米作り実験参加ご希望の方はメールでお知らせ
下さい。下記どちらかをCCにてお願いします。

秋吉祐子：yaki035@nifty.com 携帯：080-1358-9635
増子隆子：caa95040@pop06.odn.ne.jp 携帯：090-24
34-0573

<会員の皆様>

■ 理事選挙の結果

本マクロ学会通信は、次号6月号(Vol.23No.243)は、**2011
年6月2日**発行予定です。メールアドレスをお持ちで、事務
局にメールアドレスを登録されていない会員の方は、是非
事務局までお知らせください。(メールを使用されていない
方には、これまで通り送付対応いたします。)

発行・編集 日本マクロエンジニアリング学会事務局 〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14 拓殖大学海外事情研究所 吉野研究室(担当:齊藤) Tel/Fax 03-3947-2323 E-mail:fyoshino@ner.takushoku-u.ac.jp URL : http://www.soc.nii.ac.jp/james2/ 本通信の他への無断転載を禁じます。
--

マクロ学会だより

事務局より

先月のマクロ学会通信に記載しました日本学術会議協力学術研究団体への東日本大震災への学術としての対応についての意見募集につきまして、当学会として日本復興研究会(仮称)を立ち上げ、そこでマクロエンジニアリング学会HPに発表しました

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james2/archive/touhokukantou/index.html>

を報告いたしました。